

第5回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会
現地視察

行程

時刻	時間	内容
14:00	10分	1. 開会 四国地方整備局 河川部長
14:10	10分	トイレ休憩 ※現地視察先にはお手洗がありません。
14:20	10分	移動（四万十市防災センター→中山箇所）
14:30	20分	2. 中山箇所 ・四万十川自然再生事業
14:50	10分	移動（中山箇所→森沢箇所）
15:00	10分	3. 森沢箇所 ・ツル類が採食場所として利用する田んぼ
15:10	10分	移動（森沢箇所→間箇所）
15:20	20分	4. 間箇所 ・四万十川自然再生事業
15:40	10分	移動（間箇所→江ノ村箇所）
15:50	30分	5. 江ノ村箇所 ・代替ねぐら環境づくりの取組箇所
16:20	20分	移動（江ノ村箇所→不破箇所）
16:40	10分	6. 不破箇所 ・ツル類がねぐらに利用する砂州
16:50	10分	移動（不破箇所→四万十市防災センター）
17:00		解散

希少種情報につき、委員のみ

四万十川自然再生事業の概要

四万十川では、失われつつある白い礫河原と広い水面、冬にはツル類の越冬が見られる良好な自然環境の復元を目指し、3つの事業を柱に2002年度より四万十川自然再生事業を実施しています。

名称	目的	実施位置
ツルの里づくり	ツルたちが安心して越冬できる里づくり	中筋川流域
アユの瀬づくり	アユの産卵場となる瀬が広がる昔ながらの河原の風景の再生	四万十川入田
魚のゆりかごづくり	四万十川の生き物を育む汽水域の浅場の再生	四万十川河口から不破・山路



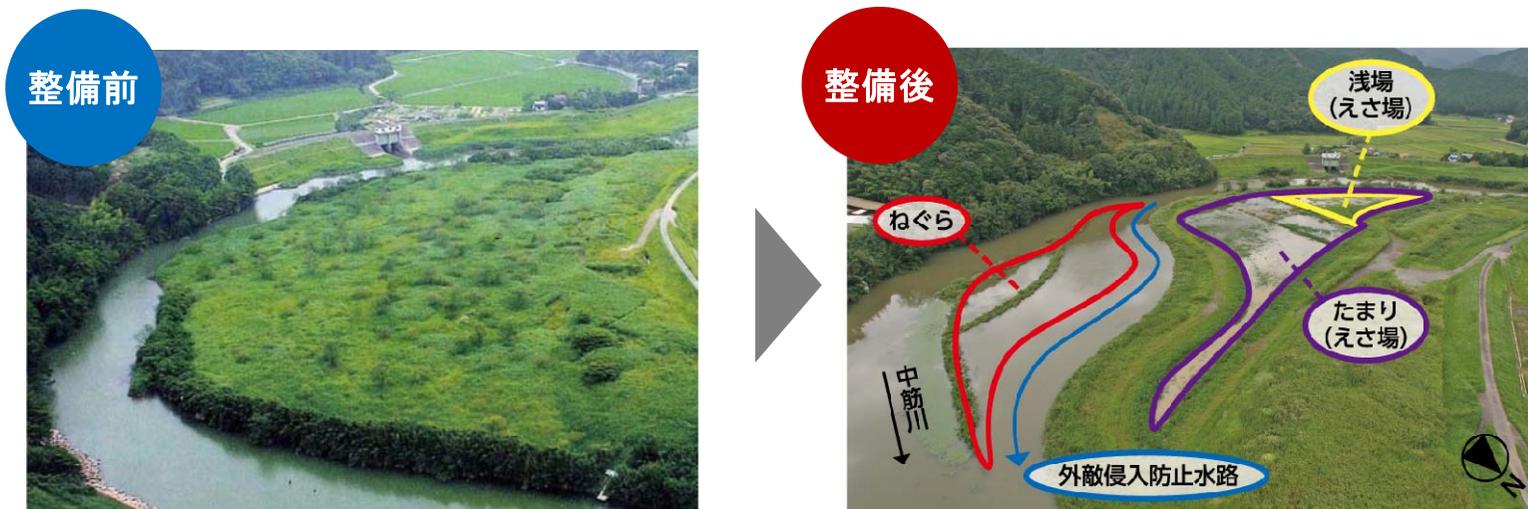
事業実施位置

視察箇所① 中山箇所

中山箇所では、中筋川の高水敷を切り下げて、多様な生き物が生息・生育できる湿地を再生しました。ツル類の採食環境やねぐら環境とすることを目的として、整備を行っています。



『ツルの里づくり』の実施箇所



中山箇所における湿地環境の再生・創出

視察箇所① 中山箇所

2013年度には、マナヅル2羽がねぐらとして利用し、越冬しました。河道内の人工的に整備した湿地でツル類の越冬が確認されたのは、全国で初めてとされます。また、モニタリング調査により、ツル類の食物となる生き物の種数が増えたことも確認されています。完成した湿地は、地元の子どもたちを対象とした自然体験学習会でも活用されました。



2013年度に中山箇所でも越冬したマナヅル2羽



中山箇所の湿地で行われた体験学習

ツル類のねぐら（四万十川の砂州）への人の立ち入り等により、ツル類の滞在個体数が大きく減少していることから、代替ねぐらの確保が必要とされています。中山箇所の湿地は、今後、ツル類が利用しやすいねぐらとして、外敵に襲われにくい広く開けた空間に再整備していくことが計画されています。

再整備



再整備後の中山箇所のイメージ

視察箇所② 森沢箇所

中筋川沿いの森沢・間の田んぼを、ツル類が採食場所としてよく利用しています。人や犬などが近づき過ぎて、ツル類が飛去してしまうことがあるため、四万十つるの里づくりの会・高知野鳥の会が看板を設置して、ツル類の飛来地であることを周知しています。



視察箇所③ 間箇所

間箇所では、中筋川の高水敷を切り下げて、多様な生き物が生息・生育できる湿地を再生しました。ツル類の採食環境やねぐら環境とすることを目的として、整備を行っています。

『ツルの里づくり』の実施箇所



間箇所における湿地環境の再生・創出

今後は、中山箇所と同様に、湿地をツル類が利用しやすいねぐらとして、外敵に襲われにくい広く開けた空間に再整備していくことが計画されています。



再整備後の間箇所のイメージ

視察箇所④ 江ノ村箇所

希少種情報につき取扱い注意

2019年度から、江ノ村の田んぼの一画で、冬期に水を張り、ツル類の代替ねぐら環境を創出しています。

希少種情報につき、委員のみ

視察箇所④ 江ノ村箇所

『四万十つるの里づくりの会』が、江ノ村の休耕田を借り上げて除草等の整備を行ったうえで、地元農家に管理を依頼し、無農薬米の栽培や二番穂の確保に継続的に取り組んできました。



休耕田であった場所を、除草や火入れ等の作業を通じて、ツル類の越冬環境として整備

視察箇所④ 江ノ村箇所

鳥類が仲間の姿に寄って来る習性を利用し、稲刈り後の水田にデコイ（ツル類の模型）を設置することで、ツル類を越冬環境の整備箇所に誘引しています。四万十つるの里づくりの会が開催する『自然体験学習会』では、地元の小中学生によるデコイの設置作業が毎年行われています。



2021年度の『自然体験学習会』において設置されたデコイ

2021年度は、ナベヅルのねぐら利用と周辺での採食利用の様子を確認することができました。また、ツル類以外にも、日中はサギ類、夜間はカモ類が利用していました。



ナベヅルが周辺の水田で採食
(手前の5体はデコイ)



ねぐらをとったナベヅル24羽
(手前の5体はデコイ)



デコイの真ん中でねぐらをとったナベヅル1羽
(手前の5体はデコイ)

視察箇所⑤ 不破箇所

ツル類のねぐらとして、主に四万十川の入田や不破の砂州が利用されています。



四万十川(不破)の砂州でねぐらをとるナベヅル